

ビオトープづくり・ホタル飼育を通して身近な自然について考える

平塚市立富士見小学校

1. 実践の内容

ホタルの飛ぶビオトープをめざして、4年生の「総合的な学習の時間」において「町中のオアシス・富士見ビオトープ」を進めた。中庭にできたせせらぎを、より自然に近い形にしようと、子どもたちは草木を植えることや小さいながら田んぼ(湿地)を造ること、さらに、草木を傷めないように、また、自分たちがいつでも自由に入り込めるようにするために「木道」を造ることなどを考え出し、その実現に向けて活動に取り組んだ。

実践の中心となる4年生は、自分たちの後を継ぐ3年生を誘ってホタルの幼虫放流会を3月に行い、ホタルの育て方等の伝授をした。



2. 実践の成果

「生き物が生息する場所＝ビオトープ」をできるだけ自然に近い形にしていこうという意識は、学習を進めた学年において育ってきている。自然に近い形にするためには、立ち入り禁止のほうがよいのではないかという思いと、自由に入り込めなければ楽しくない、意味がないという思いの狭間で、「木道」を考え出したことはたくましい。

ビオトープ造りは、自然について(子どもたちにとっては特に生き物との共生を)考えるよい場となった。

3. 実践のポイント

生き物の飼育は必ずしもうまくいくとは限らない。失敗することの方が多いうことも理解させ、また、それだけに慎重に進めること、生き物を慈しむことの重要性を合わせて理解させながら、飼育に取り組ませている。

